



新着案内

早稲田大阪学園・図書館

http://www.waseda-setsuryo.ed.jp

No.82 2018/1/10



図書・雑誌のリクエスト
今年度注文分は、1月末まで受け付けます！
遠慮なくどうぞ～★

「才能を引き出した情報空間」 落合 陽一/勉誠出版

「記者たちは海に向かった」「死の淵を見た男」 門田 隆将/KADOKAWA

「怒りを鎮めるうまく謝る」 川合 伸幸/講談社

関係修復に謝罪は重要ではない？寝転がると怒りを感じない？怒りを鎮める方法、相手に届く謝り方などを、実験や調査による研究に基づいて解説する。人間関係を円滑にする科学の最新知見が満載。

「人生を思い通りに操る片づけの心理法則」メンタリスト ダイコ/学研プラス

一度片づけたら二度と元に戻らない片づけの技法を、心理学や脳科学をはじめとする科学的根拠にもとづいて伝授。モノが捨てられないマインドを一瞬で変える思考法や、片づけのテクニックを応用した時間管理法なども紹介する。

「日本史の内幕」 磯田 道史/中央公論新社

「大人のための社会科」 井手 英策/有斐閣

GDP、多数決、公正、希望…。気鋭の社会学者が、日本の社会を形づくっている12のキーワードを取り上げ、それぞれの意味を根拠から吟味。日本社会の今後を見通す枠組みを語る。

「ニュースの“なぜ?”は世界史に学ぶ 1/2」 茂木 誠/SBクリエイティブ

「専業主婦は2億円損をする」 橋 玲/マガジンハウス

“専業主婦”は、日本だけの絶滅危惧種！？働く女だけが、お金も恋愛も自由も手に入れる。ベストセラー「言ってはいけない」の著者が、知らなきゃ損する100年ライフの生き抜き方を教える。

「いじめのある世界に生きる君たちへ」 中井 久夫/中央公論新社

「人間をお休みしてヤギになってみた結果」 トーマス・トウエイツ/新潮社

ヤギにでもなっても「悩む」ことから解放されることはできないだろうか…と実体験してみる。四足歩行の研究のためにヤギを解剖し、草から栄養をとる装置を開発。医者にも止められても脳の刺激実験を繰り返す。イグノーベル賞を受賞した抱腹絶倒のサイエンス・ドキュメント。

「子どものための精神医学」 滝川 一広/医学書院

「オトナ女子のための食べ方図鑑」 森 拓郎/ワニブックス

美容液より、美養食！「野菜を食べても代謝は上がらない」「ミネラルは塩で摂らないと損！」など、女性によくある間違ったダイエット知識を指摘し、ダイエットに成功する正しい知識を紹介します。

「オトナ女子のための美肌図鑑」 かずのすけ/ワニブックス

そのスキンケア、ムダ美容かも!? コスメの嘘は化学者でしか見抜けない。お金も時間もかかる“ムダ美容”やめませんか？化粧品解析のブログで人気の美容化学者が、本当に効果のあるスキンケア&化粧品選びをイラストと図で詳しく解説します。

「化粧品成分表示のかんたん読み方手帳」 久光 一誠/永岡書店

「食品の保存テク」 徳江 千代子/朝日新聞出版

ムダなく美味しく食べきるために、食品に適した保存をしよう。約175種類の食品を取り上げ、鮮度をキープして長持ちさせるための保存のテクニックを紹介。保存期間、失敗しない解凍方法なども掲載。

「さすが!は英語でなんとと言う?」 ルーク・タニクワ/大和書房

「ど忘れ」「時差ボケ」「人見知り」…。日本文化にもとづいた気持ちや考えを英語でどう表現すればいいかを紹介する。「とりあえず」は英語でなんとと言う?の続編。

「伊藤くん A to E」 幻冬舎/柚木 麻子

美形でポンポンで博識だが、自意識過剰で幼稚で無神経。人生の決定的な局面から逃げ続ける喰えない男、伊藤誠二郎。彼の周りには恋の話が尽きない。こんな男のどこがいいのか。尽くす美女は粗末にされ、フリーターはストーカーされ、…。傷ついても立ち直る女たちの姿が共感を呼んだ短編集。

「その手をにぎりたい」 小学館・「3時のアッコちゃん」 双葉社/柚木 麻子

「星守る犬」 双葉社・「サロメ」 文藝春秋/原田 マハ

19世紀末のロンドン。「不謹慎」「不健全」「奇怪」「退廃的」…世紀末、すべては賛辞の裏返し。その悪徳とスキャンダルで時代の寵児となった作家オスカー・ワイルドと、イギリス画壇に彗星のごとく現れた夭折の天才画家、ビアズリーの愛憎を描く。

「やはり俺の青春ラブコメはまちがっている。/12」 渡 航/小学館

「少女手帖」 紙上 ユキ/集英社

ひなたは、グループの中で平穩に生きていくことに全力を傾けている。ある日、憧れの同級生・結城さんに誘われて、グループの約束をドタキャンした。それがきっかけでシカトが始まり…。

「どこよりも遠い場所にいる君へ」 阿部 暁子/集英社

事情で知り合いのいない離島の進学校に入った和希は、入り江で倒れている少女を発見する。七緒という名前しかわからない、身元不明の彼女がつぶやいた「1974年」の意味とは？感涙の恋物語。

「弥勒の月」 光文社、「ガールズ・ブルー」 文藝春秋/あさの あつこ

「君の嘘と、やさしい死神」 青谷 真未/ポプラ社

高校2年生の百瀬は、クールな美少女・玲と運命的に出会う。文化祭の準備で「ある作戦」を実行するため奔走するうち、2人の気持ちは近づく。だが、過酷な出来事が二人を襲う…。究極の恋愛小説。

「余命10年」 小坂 流加/文芸社

20歳の茉莉は不治の病にたおれ、余命10年であることを知る。未来に対する諦めから、死への恐怖は薄れ、淡々とした日々を過ごしていく。趣味に情熱を注ぎ、恋はしないと心に決める茉莉だったが…。

「勝手にふるえてろ」 綿矢 りさ/文藝春秋

江藤良香、26歳。おたく期が長かったせいで現実世界にうまく順応できないのだが、熱烈に愛してくれる彼が出現！理想と現実のはざまに揺れ動くヨシカは時に悩み、時に暴走しながら現実の扉を開けてゆく。妄想力爆発のキュートな恋愛小説。2017年秋映画化。

「しょうがの味は熱い」 綿矢 りさ/文藝春秋

とんとん拍子で同棲までこぎつけた。それで満足すべきなんだが、半年も一緒に住めば「その先」が気になって…。煮え切らない男と煮詰まった女。トホホと笑いながら何か吹っ切れる、迷える男女に贈る一冊。

「家日和」「我が家の問題」 奥田 英朗/集英社

「追想五断章」 米澤 穂信/集英社

古書店に居候する菅生芳光は、ある女性から、死んだ父親が書いた5つの「結末のない物語」を探してほしいとの依頼を受ける。調査を進めるうち、故人が20年以上前の未解決事件の容疑者だったことがわかり…。5つの物語に秘められた真実とは？

「6番線に春は来る。そして今日、君はいなくなる。」 大澤 めぐみ/KADOKAWA

香衣、隆生、龍輝、セリカの4人が互いに抱く、劣等感、憧れ、恋心、後悔。あの駅で思いはずれ違い、一度きりの高校生活はとどまることなく進んでいき…。交錯する別れの物語。

「散り椿」 葉室 麟/KADOKAWA

かつて一刀流道場の四天王のひとりと謳われた瓜生新兵衛が、山間の小藩に帰ってきた。だが、18年ぶりの新兵衛の帰郷は、藩内抗争を呼び起こし…。秘めた想いを胸に、誠実に生きようと葛藤する人々を描いた時代長編。

「銀漢の賦」 葉室 麟/文藝春秋

「装幀室のおしごと。」 範乃 秋晴/KADOKAWA

「君は月夜に光り輝く」 佐野 徹夜/KADOKAWA

大切な人の死からどこかなげやりに生きている僕は、「発光病」の少女まみずと出会う。余命わずかな彼女に死ぬまでにしたいことがあると知り、止まっていた僕の時間が再び動きはじめた…。

「孤狼の血」 柚月 裕子/KADOKAWA

庄巻の警察小説。

「水やりはいつも深夜だけど」 窪 美澄/KADOKAWA

思い通りにならない毎日、言葉にできない本音。それでも一緒に歩んでいく。だって家族だから。同じ幼稚園に子どもを通わせる家々の、もがきながらも前を向いて生きる姿を描いた6つの物語。

「沙門空海唐の国にて鬼と宴す/巻1-4」 夢枕 獯/角川書店

唐の長安に遣唐使としてやってきた若き天才・空海と、盟友・橘逸勢。そこで二人は、役人の屋敷に取り憑いたうえ、皇帝の死を予言した妖しい猫の化け物と対峙することに…。中国伝奇小説の傑作！

「AX(アックス)」 伊坂 幸太郎/KADOKAWA

最強の殺し屋は、恐妻家。「兜」は超一流の殺し屋だが、家では妻に頭が上がらない。引退に必要な金を稼ぐため、仕事を続けていたある日、爆弾職人を軽々と始末した兜は、意外な人物から襲撃を受ける。こんな物騒な仕事をしていることは、家族はもちろん、知らない。

「生きている理由」 松岡 圭祐/講談社

滅び行く清の王女は日本で川島芳子として育てられた。後に東洋のジャンヌ・ダルクと持て囃された彼女が、なぜ十代で女を捨て「男装の麗人」に変貌したのか？国家を巡る思惑の狭間で生きる少女の数奇な恋と運命を描く。

「八月十五日に吹く風」「黄砂の籠城/上・下」 松岡 圭祐/講談社

「サロメ/改版」 オスカー・ワイルド/岩波書店

「わたしの本当の子どもたち」 ジョー・ウォルトン/東京創元社

「ザ・サークル/上・下」 デイヴ・エガース/早川書房

世界一と評されるインターネット企業、サークル。広々とした明るいキャンパス、充実した福利厚生、そして頭脳と熱意と才能をかねそなえた社員たちが次々に生み出す新技術—メイは、新生活への期待で胸をいっぱいにして働きはじめるが…。SNSとウェブの未来を予言するサスペンス。

「通り猫アルフィーとジョージ」 レイチェル・ウェルズ/ハーパー・コリンズ・ジャパン

スノーボールとの恋も実り、通り猫として平穩に暮らすアルフィー。しかし、スノーボールが飼い主一家と引っ越してしまう。失意のアルフィーを元気づけようと、飼い主の一人が仔猫をもらってきて…。

